

吉村信三

14

小倉先生の追憶

中

小倉先生には昭和二年東大地理学科在学中に海洋学の講義をうかべた。この講義を増補したものは後に岩波講座地理学中の物理海洋学として出版された。斯学の小倉が最も要領を得た教科書に先生は専門外として謙遜されてみたが、海洋学の方面にも深い造詣のあつたことと示すものと思ふ。講義は尚時々續けられ、本年も講義されたが、10月末にそれを終つたらしいのであるが、それが先生の最後の講義となつてしまつた。

其後教壇は山崎先生と共に種々海洋観測器具等を購入され、自分の海洋、湖沼学の研究が出来るやうにな

つたのも、兩先生の賜と思ふのみ。翌年には、沖島実
験中に、於て豪雨中海洋学の実習を受けたと覚えてみる。

昭和4年頃小網代港で水路部の方々が海洋観
測中であつたが、先生は独り海岸の旅館の土間テーブル
の上においで、場今の清定^をにてをうけた。この位の位置にあ
る人には馬鹿げつて、おどろきに~~出~~来しうもないことを正
確^を期する為自ら侯施されたことも深く感じた。

先生が厳密を尊ばれ、又尚に謙遜^をにあられたことも
深く感銘した所である。

在洋上短い間寺田先生の講義を聞き、又^震研の談話
會に、矢彩陸離たる講演を幾度も聞き得たことも、

私の自然物の見方や研究態度に言葉では云はれない
影響を與えたことは申すまでもなく、先生の晩年を知
り得たことは懽み、自分の幸福の一つであると思つた
こゝろ。